

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(4月3日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○自ら学び考え、対話し、行動する力を育む教育課程を編成し、深い学びを実感できる学習活動を行う。	○見通しと振り返り、対話活動を意識した単元計画を実施し、授業時間内外で生徒が主体的に学びに向かう姿勢を引き出す。	○単元計画作成時・実施途中・まとめの各段階で、担当者打合せにより課題を共有し、生徒への形成的評価を行う。 ○授業改善研修を設定し、学習指導・支援方法について全職員で知見を広める。	○生徒による授業評価・アンケート、振り返りの結果。 ○授業改善研修の実施状況、振り返りの結果、授業への反映状況。	○研究指定事業(授業力向上推進重点校)の担当Gを中心に、「指導と評価の一体化」に係る研修会及び事例研究会を行った。他教科にも参考になった。 ○外部講師を招き、学習評価研修会を実施した。実践に基づく講義と実習で、知見を高められた。	○校内研究の成果や授業評価の結果を、各教員の授業に反映させるには至らなかった。 ○有効な手立ての共有を進めるとともに、教科内研究を深められるよう、研修及び協議会を設定する。	○授業見学の際、生徒自身の主体性を高めながら対話を通じた学びを実践されていて、大変感動した。 ○外部講師を招いた研修会で、新たな発見や取組改善の方向性につながるの大切である。今後も「気づき」のある研修を継続してほしい。	○見通しを明示し、対話活動で思考を整理する機会がある授業が増えた。振り返りは改善の余地がある。 ○授業時の活動が多様になる中、何をどのような基準で評価をしていくのか、試行錯誤が続いている。	○授業力向上推進重点校としての取り組みを学校全体に広め、教科を軸に授業改善と研究を進める。特に、単元等のまとまりごとの妥当性のある評価、振り返りの活用について検討を続ける。
2 生徒指導 ・支援	①教科外活動を通じて自己効力感を高め、他者尊重に基づく規範意識を醸成する。 ②教育相談マインドを高め、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制を充実させる。	①生徒が主体的に目標を設定し活動に取り組む支援をし、その達成経験により生徒の自己効力感を高める。 ②個々の生徒状況の把握を早期に行い、生徒・保護者が相談しやすい体制づくりをする。	①コロナ禍の安全確保と活動の両立、対話による課題解決を促し、生徒が考え行動する支援をする。 ②関係職員間で情報共有を速やかに行う手立てを工夫し、SC・SSWと連携する。	①生徒の振り返り、アンケート。 ②情報共有の手立ての確立状況。教育相談の実施状況。生徒・保護者アンケート。	①前期に体育祭・文化祭を開催し、生徒の企画力・運営力・課題解決力を高めることができた。クラスの団結力も高まった。 ②担任と学年の教員が連携して、生徒の困難を聞き取り共有し、教育相談につながられた。	①前期に大きな行事を2つ行うのは、生徒への負荷が大きい。行事の設定を改善する。 ②SC・SSWへの相談内容は多様化しており、教育相談CD・養護教諭・担任・部活動顧問等の連携を深める。	①体育祭・文化祭を通して体験できること(企画運営や課題解決等)は、将来の人間形成に寄与すると考える。 ②生徒の困難を聞き取り共有し、教育相談につながる等の丁寧な取り組みは、とても評価できる。	①年度末に合唱コンクールを実施し、昨年度よりも学校行事を通じて生徒が学び成長する機会を増やせた。部活動の負担を感じる生徒への対応が必要である。 ②情報共有の手立てに検討の余地がある。	①年間でのバランスを考慮し、学校行事を設定する。部活動を通じた学びや成長を大切に、生徒の主体的な活動となるように計画をたてる。 ②対面以外の情報共有の方法も活用を検討する。
3 進路指導 ・支援	○「生きる力」を育むキャリア教育の視点での指導・支援を充実させ、卒業後のキャリア形成のスタートとしての進路実現を支援する。	○進路目標の設定や計画遂行の過程で、生徒がチャレンジを継続できるように、組織的な支援を行う。	○Spontaneous(手帳)の活用指導、適時適切なガイダンスや情報提供、模擬試験結果のフィードバックと教科学習での対応、個別面談等を充実させる。	○生徒・保護者アンケート。受験状況(3年生)。各種ガイダンスの実施状況。キャリア・パスポートの記述内容。	○進路ガイダンスを各学年で適時実施し、的確な情報提供により生徒の学習意欲を高められた。模擬試験の結果の振り返りを丁寧に行い、次の課題設定につなげられた。	○学習・進路計画手帳 Spontaneousの活用でクラス差がある。3年間を見通した進路支援計画をさらに練り上げ浸透させる必要がある。	○Spontaneousの3年間の活用は、とても良い仕組みである。生徒全員が活用効果をあげられるよう、引き続き指導支援をお願いしたい。	○卒業時の希望進路の実現は、例年より実績を上げられた。その要因を分析し、次年度以降の指導支援にいかしていく。	○目標設定と振り返りには、生徒自身の現状把握も必要である。自分をメタ認知できる機会を、支援計画の中に設定する。
4 地域等との 協働	○地域に信頼される学校づくりを推進し、地域に貢献する。また、地域貢献活動を通して、「生きる力」を育む。	○生徒一人ひとりが学校の代表として地域社会に接している意識を持たせるとともに、地域や同窓会等の外部資源の教育活動への活用を進める。	○コロナ禍でもできる地域貢献活動を行う。 ○地域や同窓会、学校運営協議会等と連携した教育活動を企画実施する。	○生徒・保護者アンケート。生徒の振り返り。実施できた活動の状況。	○コロナ禍の活動として、クラス単位でポスターを制作し、生徒の意識向上を図った。 ○創立60周年記念式典を同窓会との連携、オンライン併用で挙行し、生徒の心に響く講演・演奏を行えた。	○地域に信頼される学校として、可能な活動が何かを引き続き検討する。 ○地域、同窓会等の外部資源を活用し、生徒に還元できる学校行事の創出を図る。	○コロナ禍の状況で難しい舵取りであったと思う。その中でも創立60周年記念式典を同窓会と連携して挙行できたことなど、取り組みを評価する。	○60周年記念式典における同窓会(卒業生)の講演・演奏は、生徒に勇気を与えた。定期的に同様な機会を協力依頼するには、設定調整のための体制づくりが必要である。	○同窓会、PTA、学校運営協議会、地域の方々等、教職員以外の方との連携行事を検討し、生徒たちの挑戦する意欲を引き出す。
5 学校管理 学校運営	①学校運営協議会の活動による学校運営の改善と、全教職員の共通理解及び指導姿勢の一致を図る。 ②「働き方改革」を推進し、在校等時間を縮減しながら、教育活動の充実を図る。	①スクール・ポリシーを校内外へ周知し、校内の取組に反映させる。 ②職員の長時間勤務の改善に取り組み、職員が心身ともに充実して生徒の指導支援を行えるようにする。	①各種目標・計画への反映。生徒・保護者・学校関係者への説明機会や広報活動の工夫。 ②情報共有と課題調整の手立ての工夫。事故防止と効率化を目指した業務改善。出勤時間遵守の呼びかけ。	①生徒・保護者・学校関係者へのアンケート。 ②有効な手立ての実施状況。業務改善状況。超過勤務時間の状況。	①スクール・ポリシーを各教室に掲示し、学期の節目等の校長講話により生徒に繰り返し周知した。 ②衛生委員会を通じて産業医と連携し、長時間在校生への健康面談を行い、メンタルサポートを実施した。事故防止に向けて、全職員で確実な業務を行った。	①周知を継続することで理解を深め、授業・行事・部活動等に反映できるようにする。 ②業務の効率化として、情報共有のあり方に検討の余地がある。ICT活用と対面口頭との使い分けを整理する。	①生徒が授業でスクール・ポリシーを実感できるとよい。学習意欲や自主性の向上に直結すると思う。 ②教師の心身が健康でなければ、適正な学校運営は不可能。長時間勤務の改善は困難だが、諦めず産業医と連携し、根気よく取り組まれない。	①配付、掲示、講話、広報誌掲載等で、スクール・ポリシーを周知した。実際の取組に反映できるように、理解の段階をあげる必要がある。 ②産業医との連携、事故防止に向けた確実な業務を行った。長時間勤務の改善状況は、十分ではない。	①周知の工夫を継続することで理解を深め、教育活動の具体的な場面とのつながりを意識できるようにする。 ②優先すべき業務に時間をかけられるように、改めて改善方法を検討する。